

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども支援ルーム ここにこ		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日	～	令和8年 1月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 5日	～	令和8年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> お子さんの人数に対して職員をゆとりをもって配置しており、日々の関わりの中で表情や動きの小さな変化にも気づきやすい環境が整っている。こうした体制が、お子さんが安心して過ごせる雰囲気づくりにつながっている。 職員が一人ひとりの特性やその日の様子を丁寧に受け取りながら関わることで、無理のない形で活動に参加しやすくなるなど、個性を大切に支援が自然に行われている点も強みとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> お子さんが安心して過ごせるよう、声の掛け方や距離感などを意識し、落ち着いた雰囲気づくりを大切にしている その日の体調や気持ちを丁寧に受け取り、無理のない参加方法や関わり方を選べるようにしている。 お子さんが安心して挑戦できるよう、成功体験につながる声かけや環境づくりを意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の気づきをより支援に活かせるよう、職員同士の共有方法を少しずつ見直し、同じ方向を向いて関われるようにしていく。 お子さんが安心して活動に参加できるよう、環境づくりや声かけの工夫を続けながら、より落ち着いて過ごせる場を整えていく。 その日の状態に合わせた柔軟な対応がしやすいよう、活動の選択肢や提示の仕方を増やし、参加しやすい雰囲気を広げていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人ひとりが明るく、お子さんや保護者と自然にコミュニケーションをとることができている。 そのことで、日々の関わりの中で安心感が生まれ、相談ややり取りがしやすい雰囲気づくりにつながっていると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> お子さんが安心して近づけるよう、急がせない声かけや、気持ちに寄り添った距離感を心がけている。 日々のやり取りが明るく安心できるものになるよう、声のトーンや表情を意識しながら関わるようにしている。 保護者が話しやすい雰囲気をつくるため、送迎時のちょっとした会話や様子の共有を大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> お子さんの反応や気持ちの変化に気づきやすくするため、日々のやり取りを振り返る時間をつくり、関わり方の見直しにつなげていく。 保護者とのやり取りにも明るい雰囲気を広げるよう、共有の仕方や伝え方を見直し、相談しやすい関係づくりを進めていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 年齢やクラスに合わせて、活動内容や取り組み方を柔軟に調整しており、お子さんが無理なく参加しやすい環境づくりができています。 その日の様子や特性に応じて関わり方を変えることで、一人ひとりが安心して取り組める支援につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスごとの雰囲気やメンバーの特性に合わせて、活動の進め方や声かけの方法を変えるなど、参加しやすい環境づくりを意識している。 その日の体調や気持ちの状態を見ながら、活動内容を柔軟に変更したり、選択肢を増やしたりして、安心して参加できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> お子さんのその日の状態に合わせた調整がしやすいよう活動の選択肢や提示方法を増やし、より柔軟に対応ができる体制を整えていく。 活動中の様子を振り返る時間をつくり、良かった工夫や改善点を職員同士で共有し、次の活動に活かせるようにしていく。 保護者からの情報や家庭での様子を活動に反映しやすくするため、共有の仕方を整え、より協力し合える関係づくりを深めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 家族支援プログラムや保護者同士の交流の場が十分に整っておらず、取り組みが限定的になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の支援や運営が中心となり、家族支援や保護者交流の場づくりまで十分に手が回っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族支援や保護者交流の場を無理なく設けられるよう企画や準備を担当する体制を少しずつ整えていく。 保護者の参加しやすい時間帯やニーズを把握し、負担の少ない形で参加できる機会づくりを進めていく。 小規模でも実施しやすい取り組みから始め、継続しやすい家族支援の形をつくっていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 戸建ての環境であるため、広いスペースを使ったダイナミックな運動遊びが実施しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 戸建ての構造上、広い運動スペースを確保しにくく、大きな動きを伴う活動が実施しづらい環境となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られたスペースでも取り組める運動遊びを工夫し、必要に応じて屋外や地域の施設を活用していく。
3			